

August 23, 2026

信仰の働き テサロニケ第一 1:1-3

1:1 パウロ、シルワノ、テモテから、父なる神と主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教会へ。恵みと平安があなたがたにありますように。

1:2 私たちは、あなたがたのことを覚えて祈るとき、あなたがたすべてについて、いつも神に感謝しています。

1:3 私たちの父である神の御前に、あなたがたの信仰から出た働きと、愛から生まれた労苦、私たちの主イエス・キリストに対する望みに支えられた忍耐を、絶えず思い起こしているからです。

ギリシャの哲学者は、人には次の4つの基本的な「徳」が備わっていなければならないと説きました。「知恵」、「勇氣」、「節制」、「正義」です。しかし、この4つだけでは、社会を保つことはできても、神との関係が成り立ちません。それで、アウグスティヌスは「信仰」、「希望」、「愛」の3つを最初の4つに加えました。それ以来、教会は「知恵」、「勇氣」、「節制」、「正義」と、「信仰」、「希望」、「愛」の7つを大切にしてきました。とくに「信仰」、「希望」、「愛」の3つを最も大切なものとしてきました。聖書に「こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。」（コリント第一 13:13）とある通りです。きょうは、「信仰」、「希望」、「愛」のうち「信仰」についてご一緒に考えたいと思います。

一、信仰による救い

なぜ、「信仰」は「希望」、「愛」とともに、「すぐれたも

の」、「いつまでも残るもの」といわれているのでしょうか。それは、信仰が人を救うものだからです。どの宗教でも人は善い行いを積み重ねたり、立派な人間になることによって救われると教えます。しかし聖書は、人を救うのは「善行」ではなく、「信仰」であると教えています。ローマ 3:28 に「人は律法の行いとは関わりなく、信仰によって義と認められる」とあります。ローマ 4:5 には「しかし、働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます」と書かれています。

ユダヤの人々は、「自分たちはアブラハムの子孫であり、律法を与えられているから、それによって救われている」と主張していました。それで、ローマ人への手紙 4 章では、アブラハムが「義と認められた」のは律法の行いによってなのか、信仰によってなのかを問いかけているのです。アブラハムの子孫に「律法」が与えられたのは、モーセのときで、アブラハムから四百年以上も経ってからのことです。アブラハムの時代には、まだ律法は与えられていなかったのです。ですから、アブラハムは律法によって救われたものではありませんでした。神を信じて「義と認められた」、信仰によって義とされたのです。

イエスに救いを求めた多くの人々は立派な人、正しい人ではありませんでした。律法に合わない人も多くいたのです。けれども、誰もが自分に罪があり、欠けがあることを知っていました。そして、その人たちは信仰によってイエスに近づきました。いや、イエスがその人たちを恵みによってご自分に引き寄せられ、彼らは信仰によってそれに応えたのです。イエスはご自分に救いを求めた人々に赦しや癒やしを与え、「あなたの信仰があなたを救った」と言われました。人々は信仰によって救

われたのです。

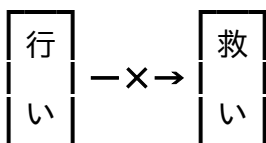
十字架の上でイエスを信じた強盗は、「人は信仰によって救われる」ことの実例です。イエスは二人の強盗と一緒に十字架につけられました。イエスを真ん中にして一人は右に、もう一人は左にです。そのうちの一人が「おまえはキリストではないか。自分とおれたちを救え」と言って、イエスをののしりました。しかし、もう一人が彼をたしなめました。「おまえは神を恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。おれたちは、自分のしたことの報いを受けているのだから当たり前だ。だがこの方は、悪いことを何もしていない。」そして、イエスにこう言ったのです。「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。」これは、イエスが御国の王、救い主であるとの信仰告白です。イエスは彼の信仰に対して「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます」と約束されました（ルカ 23:39-43）。この強盗は、今までさんざん悪いことをしてきました。イエスが救い主であると信じたからといって、その後、何か善いことができるのでしょうか。彼はまもなく十字架で息絶えていくのです。どんな善いこともできるはずがありません。それに、律法によれば、「木にかけられた者はみなのもろわれた者」なのです（申命記 21:23、ガラテヤ 3:13）。この強盗のたましいは律法によれば、のろいの場所に行かなければならないのです。しかし彼は、祝福された場所、「パラダイス」に、最も祝福されたお方イエスとともにいるのです。イエスを信じたからです。私たちを義としてくださる方を信じる者は義とされるのです。私たちを救うお方を信じる人は、自分をすくうことができるだけの善行——そんなものはどこにもなく、誰

もそんなことはできませんが——がなくても救われるのです。信仰は人を救うのです。「信仰」は私たちを永遠の救いに導くもの、「いつまでも残る」もののなのです。

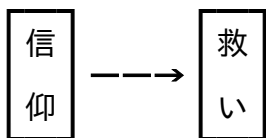
二、信仰による働き

人は信仰によって救われます。では救われたなら信仰はいらなくなるのでしょうか。信仰は「いつまでも残るもの」ですから、そんなはずはありません。私たちに救いを得させてくれた信仰は、救いののちにさらに力強く働くのです。

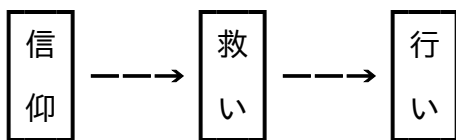
人は行いによっては救われません。



信仰が人を救います。



では行いは消えてなくなるのでしょうか。いいえ、イエス・キリストの救いを受け取った信仰は行いを生みます。



聖書はこう言っています。「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。」（エペソ 2:8-9）人は行いではなく信仰によってだと教えています。そして、続けてこう言

います。「実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。」（エペソ 2:10）救いをもたらす信仰は、行いを生み出すのです。

テサロニケ第一 1:3 にこうあります。「私たちの父である神の御前に、あなたがたの信仰から出た働きと、愛から生まれた労苦、私たちの主イエス・キリストに対する望みに支えられた忍耐を、絶えず思い起こしているからです。」信仰が働きを生み出すとあります。ここは、以前の訳では「信仰の働き」、「愛の労苦」、そして「望みの忍耐」と訳されていました。そのほうが原文に近く、簡潔で覚えやすいと思います。

ここには「信仰の働き」、「愛の労苦」、「望みの忍耐」とあって、「信仰」は働き、「希望」は忍耐し、「愛」は労苦すると教えられています。名詞というよりは動詞のようにして扱われています。「信仰」、「希望」、「愛」のどれも美しい言葉ですが、それはただ額に入れて飾って鑑賞していればよいというものではありません。聖書は「信仰」、「希望」、「愛」のどれも日常生活の中で「働く」ものだと教えています。見えるものを超えて「信じる」、失望や落胆の中でも「望み」、憎しみに満ちた世にあっても「愛する」——それが「信仰」、「希望」、「愛」です。

「信仰」、「希望」、「愛」は、それ自体は目に見えません。しかし、「信仰」が忠実で熱心に「働く」とき、それは見えるものとなります。また「希望」が「忍耐」をもつてものごとを成し遂げるとき、それは人々の注目を集めます。さらに「愛」が「労苦」をいとわず喜びをもって働くとき、誰もがそ

れに心を打たれるでしょう。ある人は、「愛の深さは労苦で量ることができる」と言いましたが、たしかにそうだと思います。「信仰」、「希望」、「愛」が「信仰の働き」、「望みの忍耐」、また「愛の労苦」となって現れるとき、それらは人々に神の栄光を証しするものとなるのです。

テサロニケのクリスチャンは使徒パウロから福音を聞き、イエス・キリストを信じ、信仰によって救われました。ユダヤ人からの迫害や偶像崇拝者たちからの圧迫がありましたが、それにくじけることなく信仰を保ち、救いの喜びの中にありました。信仰から生まれる善い行いや正しい生活によって周りの人々にイエス・キリストを証ししました。パウロはテサロニケのクリスチャンの「信仰の働き」を見聞きして、彼らの「希望の忍耐」や「愛の労苦」とともに感謝したのです。

私たちも、信仰が日常の生活の中で生きて働き、人生に善い実が結ばれるよう願っています。しかし、多くの場合、信仰が生きて働いていないように感じてがっかりすることがあります。しかし、そんな私たちのために次の祈りがあります。「こうしたことのため、私たちはいつも、あなたがたのために祈っています。どうか私たちの神が、あなたがたを召しにふさわしい者にし、また御力によって、善を求めるあらゆる願いと、信仰から出た働きを実現してくださいますように。」（テサロニケ第二 1:11）

この祈りは、テサロニケのクリスチャンのためだけの祈りですが、同時に私たちのための祈りでもなければなりません。信仰が力強く働き、その働きが実現する。それは自分の力でできることではありません。しかし、神にはお出来になります。ガラテヤ 5:22-23 では「ピステイス」は「誠実」と訳されていま

すが「ピステイス（信仰）」は、「希望」と「愛」とともに御霊の実の一つです。神は、聖霊によって私たちの内に「信仰」の実を实らせ、それとともに多くの善い行い、信仰の働きの実を实らせてくださるのです。私たちも、自分が何のために救われたのかを知り、神の力を求めるとき、信仰の働きを実現することができます。「神が、わたしたちを召しにふさわしい者にし、また御力によって、善を求めるあらゆる願いと、信仰から出た働きを実現してくださいように」と祈りましょう。

（祈り）

父なる神さま、あなたは私たちを信仰によって救いへと導き入れてくださいました。それがどんなに大きな恵みであるかを教えてください。救われた私たちに与えられている使命を知り、それを覚えて行動できるように助けてください。私たちには善を願い求めても、それを実現する力がありません。あなたの全能の力で、私たちの信仰の働きを実現してください。そして、そのことを忍耐深く祈る私たちとしてください。イエス・キリストのお名前です。